

行 動 規 範

1、秘密情報の保持

役職員は当社のもつ社会的責任を常に認識し、責任を尽くし一致協力して秘密情報の保持に努めなければならない。

- ① 会社の信用は役職員一人ひとりの信用の上に成り立っていることを自覚する。
- ② 業務上知り得た会社ならびにお客様の情報やその内容（秘密情報）は、たとえ家族であっても外部に漏らしてはならない。また、在職時のみならず退職後も正当な会社規定に沿わずに秘密情報を利用したり漏洩したりしない。
- ③ 会社の業務上知り得たノウハウを会社の不利益になることに使用しない。
- ④ 業務上の技術、情報に関する書類、記憶媒体等を正当な手続き無く流用しない。
- ⑤ 不要になった会社の機密情報に関する書類は、必ずシュレッダーにかける。
- ⑥ 電子メール・FAX送信にあたっては、メールアドレス・番号間違いや着信管理の甘さなど、情報漏洩の危険性が高いことに注意し特段の注意をはらう。
- ⑦ 会社外での会話では、お客様の取引内容や会社の機密情報の話はしない。

2、ルールの厳格な遵守（コンプライアンス）

社会人である会社員として、あらゆる法令やルールを厳格に遵守し、社会的規範にもとることのないよう誠実かつ公正な態度を心がける。

- ① 社会市民として法律に反する行為をしない。（道路交通法違反・軽犯罪法違反等）
- ② 会社の就業規則をはじめ、諸規程等や業務遂行上必要なルールを守る。
- ③ 無断欠勤をしてはならない。遅刻・早退は必ず許可を得なければならない。
- ④ 資材等の購入先および協力先に対し、常に対等、公正な立場で接し、関係法令および契約に従って誠実な取引を行わなければならない。
- ⑤ 国会議員、地方公共団体の長および議員、官公庁・地方公共団体の役職員（法人・団体の役職員であってみなし公務員とされる者を含む。）等に対し、贈賄行為を行わないことはもちろん、営業上の不正な利益を得るための利益供与、便宜供与とみられる接待、贈答品の提供、その他合理的根拠のない対応等を行ってはいけない。

3、誠実な職務の遂行

会社内の行動、および、お客様に対しては、礼節をわきまえた上で常に誠意をもって接し、相手の立場に立った対応を心がけなければならない。

- ① 周囲にさわやかな印象を与える身だしなみを心がけ、お客様・上司・同僚を問わず礼儀正しく接する。
- ② 業務上のミス・トラブル・クレーム等については、ささいなことでも上司に「報告・連絡・相談」を速やかに行い、指示があれば従う。
- ③ 市民社会の秩序や安全に脅威を与える暴力団など反社会的勢力には、毅然とした態度で対応し、関係は持たず、不当な要求は一切受け入れてはならない。
- ④ 会社の水火震災その他非常事態では、自身の安全は確保しつつも、速やかに駆けつけ、可能な限り会社の安全を図らなければならない。

4、自己規律の徹底

役職員はより高い信用と倫理観を求められるべきであり、いやしくも社会常識を逸脱することがないように常に自己規律の徹底に努めなければならない。

- ① 会社の地位を利用し、自己または第三者の利益を図るために便宜を図り、利益を得てはならない。
- ② 会社の許可なく他の職に就くことや、自分で営業を営むことをしてはいけない。
- ③ 会社の許可なく就業時間中、または、会社内では就業時間内外を問わず示威運動、集会、その他政治運動や宗教運動をしてはならない。
- ④ 取引先等との接待、贈答品の授受に関して、健全な商慣習や社会的常識を外れる行動をとってはいけない。
- ⑤ 直接間接にかかわらず、法律に違反する投機的行為、または賭博もしくはこれに類する行為をしない。
- ⑥ 服装・交際は華美にならないようにし、節度のない遊戯・飲食を行わない。
- ⑦ 職場においては異性を一人の人間として尊重し、いやしくもセクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントに類するような行為は行わない。

5、厳正な業務処理

お客様のお役に立つ質の高い技術を提供するには、正確な業務処理が基本である。規程やマニュアル等を遵守した正しい仕事で、お客様の満足を得て取引は継続される。

- ① 業務遂行にあたっては習慣・慣例・思い込みではなく、必ず規程・マニュアル・手順書等を確認し処理する。
- ② 手順書等が合理的な処理でないなど現状に即さない場合は、上司に申し出て、検証した上で修正を行う。
- ③ 処理に迷う時は必ず上司に相談し、承認のもと指示に従う。曖昧なまま、独断で任された権限を超えて処理してはならない。
- ④ 点検・審査は形式的にならず、相互牽制機能として活かされなければならない。

6、充実した生活の創造

仕事とプライベートの両立を含む、長期的な生活設計は、人生における不可欠な要素である。心豊かな人生を送るため、仕事では日々技能と技術の向上を目指しつつ、充実し潤いのある生活を心がけなければならない。

- ① バランスのとれた良き社会人として、広く社会とコミュニケーションを図る。
- ② 自己啓発を心がけ、教養を身に付け人格の向上に努める。
- ③ 常に健康維持に留意し、ベストの体調を保つ事を心がける。
- ④ 趣味や継続的なスポーツを通じて心身のリフレッシュを心がける。
- ⑤ 家庭を持つ者は、安定した業務の為にも家庭の充実が重要であり、円満な家庭を築くよう努めなければならない。